

おおせっからんど便り

NPO 法人おおせっからんど
第 31 号 2024 年 4 月



仏沼の 5 月（撮影：宮彰男 2023 年 5 月）

「仏沼今昔」 —オオセッカの発見からラムサール条約指定まで— 津曲 隆信（NPO 法人おおせっからんど理事長）

オオセッカは明治になって新種として日本で発見された鳥ですが、昭和 11 年に仙台の蒲生干潟で繁殖が確認されて以降、干潟の開発で姿を消し絶滅したと考えられていた鳥です。その後昭和 47 年に青森県のベンゼ湿原で再発見され、翌年には秋田の八郎潟や青森の仏沼でも生息が確認されました。

仏沼は昭和 40 年代に水田用地として干拓されましたが、減反政策のため作付けされずに湿地となり、工業や畜産の用地化が取りざたされていました。仏沼を湿地として残そうと三沢・八戸の野鳥の会が中心となり、オオセッカをはじめとした貴重な鳥類の生息地を保全する運動が始まりました。売りに出された仏沼の用地を少しずつ買い上げる「オオセッカ村づくり運動」がスタート

し、協賛する村民の方が増えました。ラムサール条約指定湿地をめざす第一歩でしたが、その道はずいぶん遠いと思われました。

仏沼を人の生活のために活用するか、野生生物のために残すかいろいろ話し合いがなされましたが、最終的には三沢市が全域を買い上げ、一部を放牧場にし、残りを、野生生物のために残すことになったのです。それにともない、放牧場域を除く仏沼内部 222ha が国指定特別保護区、外部周辺の 737ha が鳥獣保護区に指定され、2005 年 11 月、アフリカのルワンダで開かれたラムサール条約加盟国会議において、仏沼はラムサール条約登録湿地の指定を受けることができました。

※当時の資料は 3 ページをご覧ください。

NPO 法人おおせっからんど 会員募集中 あなたもおおせっからんどを支える仲間になりませんか？

特典：会報の送付（年に 3 回程度）・E メールか LINE でのイベント情報提供 年会費：サポート会員 2,000 円 正会員 5,000 円 申込は事務局まで。

オオセッカとの出会い

今兼四郎（下北野鳥の会）



私がオオセッカと出会ったのは半世紀ほど前、1972年ころだったと記憶しています。師匠の古川博先生の車で毎週のように六ヶ所方面に出かけて鳥を見ていました。まだ暗いうちに下宿にやってきて、呼び起こされたものでした。当時、市柳沼でカンムリカイツブリ、弥栄平（現むつ小川原石油備蓄（株）の辺り）ではアカモズの繁殖を観察し、尾駮沼で数えきれないほどのシギ・チドリ類を見ていました。

一通り鳥を見終わると、古川先生には楽しみにしていることがありました。それは、昼に馴染みのドライブインでワカサギやヌマエビなどを肴にし、ビールや日本酒を頂くことでした。つまり私は、帰りの運転手として誘われていたのです。帰路、砂利道を一時間半ほど揺られながらも先生は目を覚ますこともありませんでした。

そのころ、六ヶ所村のあちこちのヨシ原で弧を描いて飛びながら囀る鳥を見ていましたが、それが何という鳥なのか判らず不明種として観察を続けていました。すると、1972年に津軽半島で「幻の鳥オオセッカ」発見のニュースが流れ、その後秋田県八郎潟、そして仏沼でも生息が確認されました。そのときはじめて、この不明だった鳥がオオセッカであることを知りました。当時、オオセッカを見ていたのは仏沼地域ではなく、尾駮沼周辺、鷹架沼周辺、市柳沼から高瀬川河口部までのヨシ原と水田、倉内集落から高瀬川橋に至る道の左右に広がるヨシ原でした。それなりの羽数が生息していたように記憶しています。春の渡りでは、水をはった田んぼで夏羽のエリマキシギを何度か観察し、夏にはオオヨシゴイが普通

に見られたものでした。

1980年代には、下北半島でもオオセッカの生息が確認されました。仏沼は日本最大の繁殖地として知られていますが、本州最北の下北半島では数羽ほどが細々と命をつないでいます。オオセッカが繁殖に選んでくれたのはむつ市と大間町です。どちらも水田として使用していた所で、現在はヨシ原や草原、牧草地となっています。

むつ市の生息地は、市の中心部から数キロと近く、オオジシギやコジュリンの生息が確認されている地域です。2013年には最大7羽の囀りを観察しています。しかし、6月から7月にかけて飼料用の草刈りがはじまり、草丈の低い雑草が刈りとられてしまいます。これが個体数の増えない原因の一つになっていると考えられます。

大間町では、大間崎に近い津軽海峡が見えるヨシ原が生息域となっていて、近年では2012年に2羽、2016年と2017年にそれぞれ1羽観察していますが、2018年以降は観察されていません。以前二ヶ所あったヨシ原も乾燥化が進み、現在は一ヶ所だけとなっていることから、大間町での生息はかなり厳しい状況にあると思われます。年々変わっていくオオセッカの生息環境、仏沼のような個体数の多い繁殖地はまだしも、下北のように小さな繁殖地はいつの日か消滅して行くのでしょうか。

私がオオセッカと出会ってから50年以上が経ちました。鳥を見はじめて間もないあこのころの記憶も少しずつ風化してきていますが、六ヶ所湖沼群ではじめてオオセッカに出会ったときのことは、何故か鮮明に覚えています。

仏沼パネル展 三沢航空科学館

三戸 貞夫（NPO 法人おおせっからんど理事）



毎年、三沢航空科学館で開催している「仏沼パネル展」ではラムサール条約登録湿地仏沼の鳥や植物などを写真や標本で紹介しています。

令和5年は、11月18日から26日まで開かれ、仏沼で記録された絶滅危惧種の鳥の写真を展示しました。また、絶滅危惧種のシジュウカラガンの渡り経路と繁殖地のパネルを、「日本雁を保護する会・山階鳥類研究所」様の提供により展示することができました。植物は、NHKの朝ドラ「らんまん」のモデルとなった植物学者、牧野富太郎ゆかりの仏沼で採集した植物標本と写真を

セットで展示しました。更に、大型モニターを使って、仏沼と周辺の動植物や風景などの写真200枚近くをスライドショーで流しました。

期間中の目玉は、土日だけ開催の「押し花づくり」です。電子レンジで簡単に押し花を作り、しおりやハガキに押し花をデザインしてラミネートするのですが、毎年家族連れなどに大人気です。9日間の期間中、科学館さんのカウントで842名の来場者があったそうで、盛況だったようです。

教えて！野鳥撮影② ー測光と露出ー

綺麗な「露出」で撮影したい！

そのみん：鳥や木々の色味が美しく出る明るさに調整して撮影したいです。
のりり：カメラが自動で、あるいは撮影者が自分で明るさを調整するにあたっては、画面のどこのエリアの光の量を基準に調整するかによって、撮影結果が変わってきます。画面の標準的な露出を割り出すために被写体の光の量を測ることを「測光」と言い、各メーカー特色ある測光モードがあります。例えばキャノンのカメラにある、画面全体を分割してそれぞれの部分を測光する「評価測光」は、バランスよく被写体に合わせた露出に調整されるので、まずはこの設定がおすすめ。逆光や背景が空で鳥が暗く映る時は「部分測光」を試すなど、試し撮りをして確認してみるといいですよ。
そのみん：さらに明るさを調整するには「露出補正」をするのが良いですか？
のりり：「露出（光の量）」を補正することを「露出補正」といいますが、絞り（f値）とシャッタースピード（SS）、ISO感度の組み合わせで露出が決まります。カメラは絞りを開けたり絞ったりすることで、光が通る穴の大きさを変えます。絞りを開ける（f値が小さい）とたくさん光が入り、絞る（f値が大きい）と光の量は減る。絞りを開けると「被写界深度」が浅くなって、ピントが合っている範囲が狭くなり、手前や奥がボケる写真になる。一方、SSを速くすると、動く鳥をブレずに撮影できますが暗くなります。ISO感度を上げるとノイズも増えるので注意が必要です。
そのみん：「絞り優先モード」で撮影してみて、明るすぎたり暗すぎたりする場合は、露出補正の＋を調整して好みの明るさを探してみたいと思います！

カメラ超初心者のそのみんが、のりり先生から基本とコツを教わる紙面写真講座。



逆光のヒヨドリ 根城の広場（撮影：そのみん）
 左＝評価測光・1/640sec・ISO400
 右＝スポット測光・1/800sec・ISO1250
 共通＝CanonEOS R10・f/8.0・露出補正±0



コジュリン 仏沼（撮影：そのみん）
 評価測光 露出補正 +1.1/3
 CanonEOS R10・f/8.0・1/640sec・ISO400
 「曇天でしたが、露出補正をしたら良い感じに！」

お知らせ ー今年度の主な事業計画ー

■ 3月30日理事会・総会を開催 令和6年度計画を決定
 2023年3月30日、NPO法人おおせっからんど理事会・総

会を開催しました。令和5年度の事業報告を行うとともに、令和6年度の計画を決定しました。

| 日程 | 内容 | 場所 |
|-------------------|---------------------------------|------------|
| 4月 | 会報の発行 | |
| 5月（日時未定） | 仏沼湿性草原回復事業（簡易砂囊ダムの新設と、既存ダムの補修） | 仏沼 |
| （日時未定） | 仏沼湿性草原回復事業 | 仏沼 |
| 7日（金）～9日（日） | 自然観察指導員講習へ2名派遣 | 東京 |
| 23日（日） | 仏沼観察ステーションの管理作業（草刈りほか） | 仏沼観察ステーション |
| 6月 24日（月）25日（火）ほか | 三沢市内小学校児童を対象とした観察会 | 仏沼 |
| 29日（土）15:00 | 劇団シンデレラ公演（環境保全に関する演劇の披露） | 仏沼観察ステーション |
| 18:00 | 一斉調査前夜祭 | |
| 30日（日）4:30集合 | 一斉調査（オオセッカを中心とした湿地に生息する鳥類の生息調査） | 仏沼および近隣湿地 |
| 7月（日時未定） | 仏沼湿性草原回復事業 | 仏沼 |
| 8月 | 会報の発行 | |
| 9月（日時未定） | 仏沼観察ステーションの管理作業（草刈りほか） | 仏沼観察ステーション |
| 11月（日時未定） | 仏沼の鳥類と景観・生物の写真パネル展 | 三沢航空科学館 |
| 12月 | 会報の発行 | |
| 3月（日時未定） | NPO法人おおせっからんど 総会 | 未定 |
| 時期未定 | 仏沼紹介ポスターの発行、自然保護啓発にかかる資料や物品の販売 | |



制作発行：特定非営利活動法人おおせっからんど
 〒031-0823 青森県八戸市湊高台三丁目15番5号
 事務局 Mail: mori.degawa@gmail.com
 編集：蟹沢 格 紙面デザイン：大澤 苑美
 おおせっからんど WEB：http://www.oosekka.com

編集後記：夏鳥と渡り鳥到来の季節です。仏沼ではオオセッカやチュウヒの他、アカエリヒレアシギやチュウジシギが見られるのではと期待しています。（蟹沢）
 先日、仏沼を歩いて散策、コジュリンやベニマシコに出会いました。広い仏沼、歩くとなかなかいい運動になりますね。（大澤）